

「サウル」という名前の秘密

ベレーシート

● I 歴代誌 10章 1～14節にはイスラエルの最初の王となったサウルが失脚した話が記されています。ペリシテの脅威にさらされていたイスラエルの民は、他の国と同様に、強いリーダーシップを取ってくれる指導者を求めました。その求めに従って、神はベニヤミン族の中から「サウル」とい人物を選び、王としました。神が治められるイスラエルにおいて、王の役割は神を求め、神に従い、神の代理者としての王でした。ところが、サウルは神を求めるどころか、戦いにおける恐れるゆえに、霊媒によって伺いを立てました。聖書はサウルについて以下のように要約しています。

【新改訳改訂第3版】

I 歴代 10:13～14

- 13 このように、サウルは【主】に逆らったみずからの不信の罪のために死んだ。【主】のことは守らず、
そのうえ、霊媒によって伺いを立て、
14 【主】に尋ねなかった。それで、主は彼を殺し、王位をエッサイの子ダビデに回された。

1. 「サウル」という名前に秘められているもの

שָׂאֵל

シャーアル

שָׂאֵל

シャーウール

שָׂאוּל

シャーオール

שָׂאוֹל

シェオール

שְׂאוֹל

動詞(尋ね求める) 固有名詞(サウル) 動詞(尋ねる、伺う) 名詞(よみ、死の国)

●旧約聖書における人の名前には意味があります。この領域に関する学問が「ネーム・セオロジー」(Name Theology)と言われるものです。イスラエルの最初の王とされた「サウル」という名前について検討してみたいと思います。固有名詞としての「サウル」のヘブル語表記は「シャーウール」(שָׂאוּל)です。この名前は動詞「シャーアル」(שָׂאֵל)から来ています。「尋ね求める」「求める」「伺う」という意味です。派生語の「シャーオール」(שָׂאוֹל)も意味としては、「シャーアル」と同じです。もう一つの派生語「シェオール」(שְׂאוֹל)で、「死者の国」「よみ」を意味します。

●「サウル」の本来の名前の意味は、「神を尋ね求める、神に伺う」という意味があるのです。自分の名前に秘められているメッセージを、彼は自ら空虚なものにしてしまったのです。それは、まさに神に対しても、また自分に対しても、また名をつけてくれた親に対しても、それを裏切ることを意味します。

●ヘブル文字の **לָאֵל** の最初の文字である「シーン」(**שׁ**)は、本来、「歯」(英語の tooth)を意味します。そこから「食い尽くす、むさぼり食う」という意味が派生します。次の「アーレフ」(**א**)は、力あるものを意味し、「ラーメド」(**ל**)は、杖をもって教えたり、指導したり、導く者を意味します。「アーレフ」と「ラーメド」で、ヘブル語の「エール」(**אֵל**)となり、「神」を表わします。つまり、**לָאֵל** は、神を尋ねる、神に伺う、神の知恵を得る、神に熱中する、という意味に発展します。ところが、「サウル」は自分の名前のごとく生きようとはしませんでした。むしろ自分の後に王として立つダビデについて、「彼はいつも神に伺っている」と述べています(1サムエル 22:13)。

●神の代理者として立てられサウルが、「霊媒によって伺いを立て」(10:14)とあります。「伺いを立てる」という表現には、「シャーアル」(**לָאֵל**)と「ダーラシュ」(**שׁוֹרֵשׁ**)という二つの動詞が重ねられています。どちらも「尋ね求める」ことを意味する動詞です。尋ね求めるべき対象が、神ではなく、死人の霊であったことが、神の怒りがあったのです。そのために、皮肉にも、「死人の行く国」である「よみ」が「シェオール」(**שְׁאוֹל**)であるのは、警告的な意味合いが含まれているのでしょうか。ヘブル語のミーニングの深遠さを感じさせられます。

2. 「サウル」という名の汚名を返上させた使徒パウロ

●使徒パウロは最後の使徒としてキリストに捕えられた人物です。パウロのヘブル名は「サウロ」と表記されていますが、ヘブル語の「シャーウール」(**לָאֵל**)と同じです。イスラエルの最初の王サウルと同名であり、しかも同じベニヤミン族の出身なのです。因縁というか、神の愛嬌というか、旧約のサウルの失敗を使徒パウロが踏み直しているのです。彼の常套句は「エン・トー・クリストー」(キリストにあって)です。